

日銀グランプリ（2026年度） 説明会資料



日銀グランプリの紹介

日銀グランプリとは？

日本銀行では、学生の皆さんが金融・経済に関心を持ち、わが国の金融・経済の現状と将来について、自分たちの問題として考えてもらうきっかけになればとの思いから、2005年度より「日銀グランプリ」を開催しています。予選（小論文の審査）により決勝進出チームを選出のうえ、日本銀行本店での決勝において、小論文の報告および審査員との質疑応答を行い、最優秀賞を決定します。

日銀グランプリの流れ

4月8日 ● 募集要項の公表

小論文の
執筆

課題：「わが国の金融・経済への提言、日銀への提案」
本文：4,000字以上6,000字以内
応募単位：大学生（短大生含む）2～4名で構成

9月30日 ● 小論文の提出締切日

11月上旬ごろ ● 決勝大会進出チームの公表

小論文の報告・質疑応答の準備

11月下旬ごろ ● 決勝大会（日本銀行本店にて開催）

日銀グランプリの紹介

日銀グランプリに関する情報はWebページをご覧ください。 →

日銀グランプリ
Webページ



過去の決勝進出チームの小論文・
報告資料、審査員の講評、紹介動
画などを掲載しています

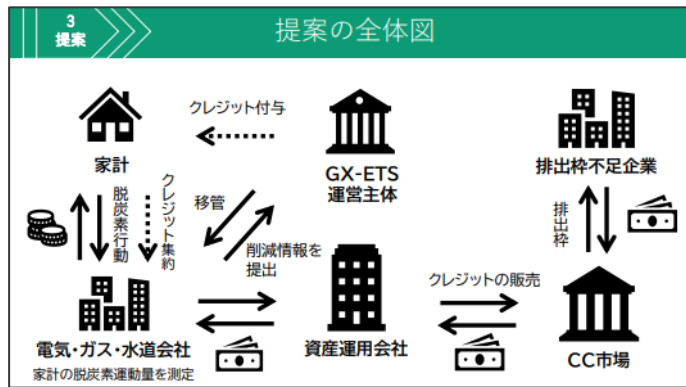
Future Can Change
～家計の排出量取引参加スキーム
「FCC」による脱炭素行動の強化～

東京経済大学 経済学部 池野 壮哉
東京経済大学 経済学部 安西 正貴
東京経済大学 経営学部 松岡 大河
東京経済大学 経済学部 船岡 慶生

<要旨>

日本政府は、2050年までにカーボンニュートラルを達成するという目標を掲げ、2030年までに温室効果ガスを2013年度比で46%削減という目標を設定している。家計部門と企業部門それぞれで再生可能エネルギーの導入やエネルギー効率の改善が必要だが、家計部門への支援政策は、充実しておらず、特に日々の継続的なエネルギーの取り組みに対する経済的支援は少ない。企業部門においては、2026年に、排出量取引制度が導入される予定で、この制度は、排出枠を企業間で取引することで、効率的に脱炭素行動を促進するものである。

そこで、家計部門をオフセット・クレジット発行者として排出量取引に参加させるスキーム「FCC」を提案する。さらに、企業に対する排出枠の厳格化を進め、従価格の上昇を促し、排出削減のインセンティブを強化する。これによって、家計部門と企業部門の脱炭素化を効果的に推進し、日本の環境対策が一層飛躍すると期待できる。



第20回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長 水見野 良三 (日本銀行副総裁)

審査員 日色 保 (経済同友会副代表幹事、日本マクドナルドホールディングス株式会社代表取締役社長兼最高経営責任者 (CEO))

原田 文代 (株式会社日本政策投資銀行常務執行役員)

安達 誠司 (日本銀行政策委員会審議委員)

中村 豊明 (日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、工夫を凝らしたプレゼンテーションをありがとうございました。

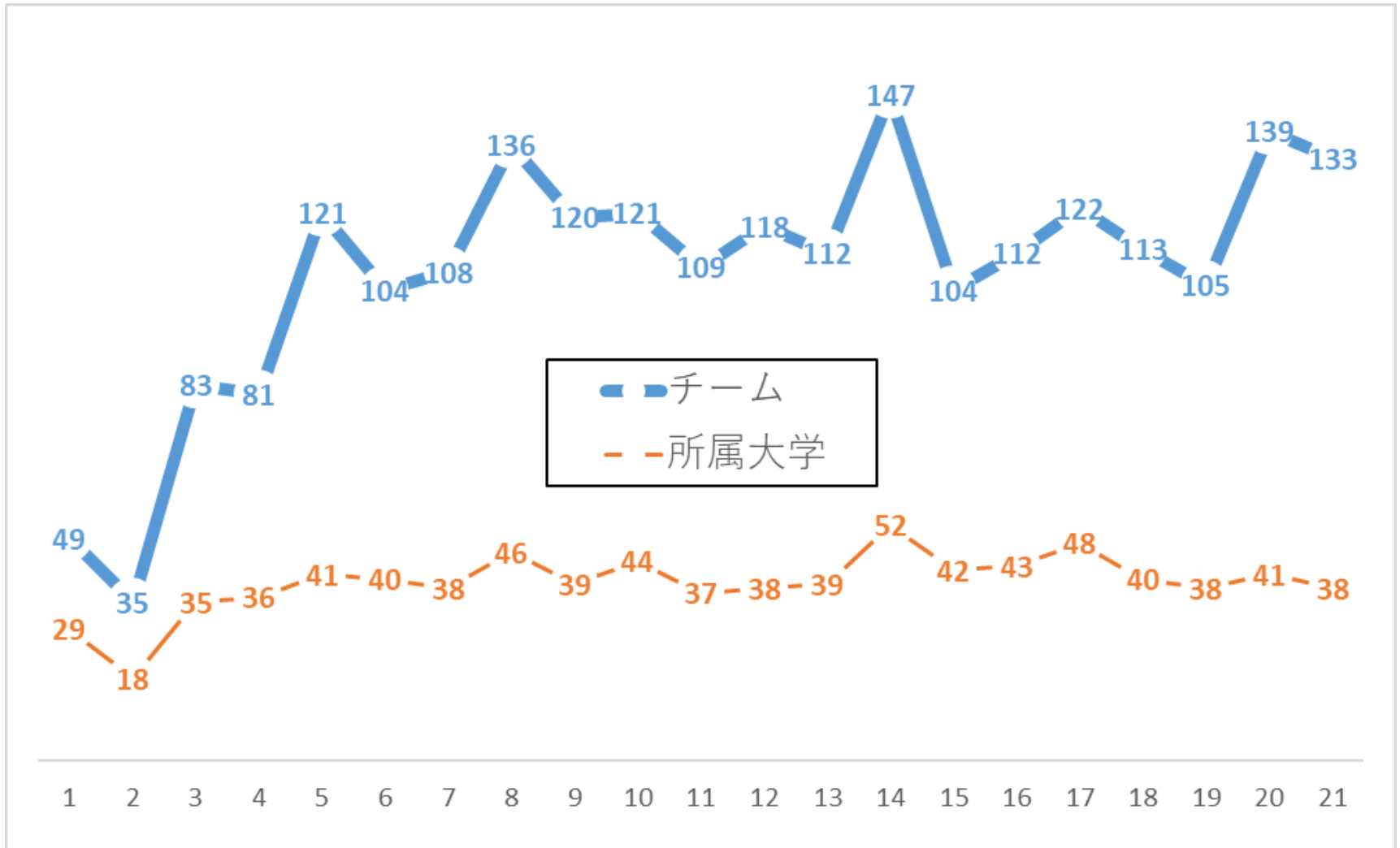
わが国経済が直面している課題について、多様な情報源を活用しながら事実を確認し、新たな視点での提言をいただきました。

統計データの分析に加え、実務家へのヒアリングやアンケート調査を通じて、発見した問題や実現に向けた課題を考察するなど、創意工夫していたことが印象的でした。



日銀グランプリの応募状況

過去21回の応募者数（チーム、所属大学）の推移



日銀グランプリの応募状況

■ 応募者の所属大学

2025年度は38大学から133篇の応募がありました。過去6年間（2020年度～）でみると、下表に記載の**82大学**（50音順）の学生にご応募をいただきました

愛知	大阪公立	九州共立	神戸	信州	筑波	富山	文京学院	麗澤
青森	大阪国際	京都	國學院	椋山女学園	帝京平成	長崎県立	法政	早稲田
青森中央学院	大阪産業	京都産業	国際基督教	駿河台	東京	長野県立	松山	
青山学院	岡山商科	近畿	国士舘	成城	東京経済	名古屋	武蔵	
愛媛	香川	熊本学園	埼玉	摂南	東京都立	名古屋学院	武蔵野	
桜美林	学習院	久留米	佐賀	専修	東京理科	南山	明治	
大分	神奈川	慶應義塾	産業能率	仙台青葉学院短期	同志社	新潟	桃山学院	
大阪	金沢学院	県立広島	静岡県立	創価	東洋	日本	立教	
大阪経済	関西医科	高知	下関市立	中央	常磐	函館	立命館	
大阪経済法科	関西学院	甲南	上越教育	中京	獨協	一橋	龍谷	

歴代最優秀賞受賞チーム（第1回～10回）

開催	タイトル名	大学名
第1回	電子ペーパーマネー・システムの構築	明治
第2回	貯蓄から参加へ ～the longest journey～	早稲田
第3回	子ども未来投資基金 ～支える金融、つなぐ金融～	東京
第4回	中小企業金融のビジネスマッチングファイナンスエキスポの提案	名古屋市立
第5回	オープンソース方式による資産運用アドバイス・サイトの構築 ～中立的で個別的なアドバイス～	明治
第6回	金融特化型SNSサイト ～「日銀チャンネル」の構築に向けて～	麗澤
第7回	「下3ケタ投資」が日本を救う！ ～グリーンファンドが照らす未来～	東京経済
第8回	起業アイデアの新たなコンテスト方式 ～Facebook 活用によるアイデアの進化を目指して～	明治
第9回	被災企業訪問から考える、被災企業救済の新たなスキームの提案 ～災害に強い国づくりファンド～	武蔵
第10回	サ高住市場と地域の活性化に向けた2つの提案 ～20年後とその先も住みやすい未来へ～	日本

歴代最優秀賞受賞チーム（第11回～20回）

開催	タイトル名	大学名
第11回	地方中小企業向け「健康プログラム」の可能性～医学（社会疫学）と行動経済学の知見をふまえて～	弘前
第12回	きものな休日 神楽坂～地域通貨「神楽坂きもの小判」ときものレンタルを利用した『和の街づくり』～	東京理科
第13回	健康通貨『WReC（レック）』～地域の魅力も“一歩”から～	摂南
第14回	所得控除連動型消費税免税マイナス金利デビットカード（免税カード）のすすめ	東京経済
第15回	大学の大学生による小学生のための学童保育	東京経済
第16回	空き家REITで空き家をがらリート～空き家問題解決しなあきやへんで！～	同志社
第17回	SDGs促進ファンド“幸”～幸せな人は、周りの人まで幸せにできる～	同志社
第18回	こそなえNISAで子育てNI、SA（差）をつけよう～所得控除を用いた早期からの資産運用支援策～	東京経済
第19回	投信レンズ～「貯蓄から投資へ」の第一歩～	埼玉
第20回	Future Can Change～家計の排出量取引参入スキーム「FCC」による脱炭素行動の強化～	東京経済

同志社大学・政策学部チーム

Chain Referral Program for e-Tax

～繋がりで波及させるキャッシュレス納付推進案～

【講評】同志社大学・政策学部チームは、金銭的インセンティブをベースに法人間の横のネットワークを利用した、国税のキャッシュレス納付、e-Tax推進による業務効率化を提案いただきました。

これまでの日銀グランプリでは、実務的な色彩が強く、ともすれば学生には取っつきにくい分野である、日本銀行の「政府の銀行」としての役割をテーマに取り組んだチームが殆どなかったことを踏まえると、そのチャレンジ精神は評価に値します。

提案の制度設計に当たっては、過去のマイナンバーカードの普及促進事例の分析、地元企業や金融機関へのヒアリング調査などを行い、有効性を検証していました。

また、金銭的インセンティブやプラットフォーム設立の原資として、税金を使うことの重みを理解したうえで、社会的コスト削減額を費用便益分析により試算することで、提案の説得性を高めていた点も評価できます。

今後、キャッシュレス納付に踏み切れていない企業側の実情をより深く把握し、インセンティブの有効性や非金銭的なサポートの必要性など、検討を深めていくことが望まれます。

課題「**わが国の金融・経済への提言、日銀への提案**」

わが国の金融・経済の現状評価と未来への提言を求めます。特に、日本銀行の政策や業務に関連のある提案は歓迎します。

(考えられるテーマの例<具体的なテーマの設定は自由です>)

- 日本銀行の政策や業務をより効果的に行うための提案
- 金融・経済・物価動向、金融システムの現状をよりの的確に把握するためのデータ・分析手法の提案
- 若年層の金融リテラシー向上策の提案
- 日本経済の成長力向上や地域経済の活性化につながる新たな金融サービスの提言
- 資金決済をより効率的かつ安全にするための提案

小論文の作成ポイント

小論文の基本的な構成要素

- ①問題意識、②現状把握、③調査・分析、④提言、⑤提言の利点や副作用、課題、⑥その他（図表や参考文献）

作成上の留意点

（1）提言の前提となる現状把握にあたっては、事実関係の確認を行ってください

- 提言を行おうとするテーマについて、多種多様な情報源を活用しながら事実確認を行ってください。この作業を怠りますと、見当違いの提言や陳腐化した提言になってしまう可能性があります。
- 併せて、そのテーマに関してすでに何らかの提言がなされていないか確認してください。
- 日本銀行の政策や業務をテーマとする場合には、日本銀行ホームページに掲載されている最新情報を十分に活用してください。

日銀ホームページ



<https://www.boj.or.jp>

日銀グランプリ
Webページ



日本銀行X
公式アカウント



■ 作成上の留意点（続き）

（２）独自の調査や分析を行う余地がないか検討してください

— 独自の調査は、現実的・説得的な提言につながります。

（３）提言に十分な分量を割いてください

— 限られた紙幅を有効に活かすため、問題意識・背景の記述は簡潔にとどめ、提言の説明に注力してください。

— 論旨と論理展開が追いやすい文章作成を心掛けてください。

— より良い論文を作成するため、提言について、グループ以外の方（大学の友人、ゼミの指導教員や先輩・後輩、調査先の企業の方等）に説明し、論理の一貫性が保たれているか、論理展開が結論に飛躍していないか、全体として説得的かどうか等について意見を聞くのも一つの方法です。

（４）提言内容を具体的に示してください

— 抽象的な内容では、提言の実効性や独創性について評価することが難しくなります。

— 過去の提言例を知りたい場合は、日本銀行ホームページに掲載されている入賞論文をご確認ください。

【作成上の留意点（続き）】

（５）提言の利点や効果だけではなく、コスト・副作用・課題も具体的に検討してください

- 誰が、どのように、どれくらいのコスト（金銭・時間）をかけるか、現在の法制度の枠組みで可能か（あるいは変える必要があるのか）等、実現に至る過程を丁寧に記述することは、提言の説得性を高めることとなります。
- 将来的なコストや副作用の軽減などについても極力論文に盛り込み、実現性に配慮した内容となるように工夫してください。

（６）他者の著作を引用・転載するときは、その旨を明示したうえで出所を必ず明記してください

- 他者の意見と自分の意見を明確に区別していない小論文や、出所の明示が不十分な小論文は、提言内容がいかにか素晴らしくとも、盗用や剽窃ではないかとの疑義を抱かれます。文章やアイデアを直接引用・転載する場合は勿論、他者の著作物を改変して引用する場合にも、必ずその旨を明記してください。

小論文の評価ポイント

■ 現状の把握・分析の的確性

- 事実関係を的確に把握しているか。問題点や課題を多角的に検討しているか
- 多様なデータや調査に基づき分析しているか
- 社会・システム全体の利益を踏まえた問題意識となっているか

■ 論旨および提言の論理性・説得性

- 提言内容は具体的なものか。実現可能性を高めるための工夫はあるか
- 利点だけでなく、コストや副作用・課題も検討しているか
- 金融・経済の実務面で意味のある提言となっているか
- 財政・制度に関する提案では、費用便益を検証するとともに、他に考えられる提案と比較しているか

■ 着眼点や提言の独創性・実効性

- 社会・システム全体の利益や成長への影響を考察できているか（部分均衡に陥っていないか）
- 金融を着眼点に入れているか
- 過去の受賞作に近いテーマの場合、新たな視点やアイデアはあるか

決勝大会の概要（日本銀行本店にて、11月下旬開催）

小論文の報告（15分）→審査員との質疑応答（15分）

★決勝大会の評価対象は小論文の内容と質疑応答



■ テーマ選定の上で、日銀の業務等について学びたいこと、確認したことがあれば、個別にお問い合わせください

メールアドレス post.prd3@boj.or.jp

日銀グランプリ
Webページ

■ 2026年度の実施情報や紹介動画は、Webページ
をご覧ください

